

『腹膜播種に対する減量手術（CRS）/腹腔内温熱化学療法（HIPEC）の意義に関する多施設共同研究』

2006年から2019年までに当院で大腸癌、腹膜偽粘液種、悪性中皮腫、卵巣癌、胃癌の腹膜播種病変をもつ症例に対して、手術（原発巣切除のみ、緩和手術、審査腹腔鏡を含む）をうけた患者さんについて、腹膜播種に対する至適治療法を同定することを目的に、臨床病理学的データ（患者背景、手術所見、病理所見、予後）を、カルテより情報を取り出し調査します。カルテを用いて転移や予後との関連を調査します。すでにある情報を集計する研究なので、この研究に参加することにより、新たに検査や治療が増える、費用が掛かるということはありません。データの集計にあたっては匿名化の後に行い、患者さんの個人情報を公開することはありません。また個人を特定できる情報を施設外に提供することはありません。研究対象とならないことを希望する際には当教室に連絡すれば、情報の削除が可能です。本研究は京都大学医の倫理審査委員会、並びに当院倫理委員会にて審査を受け、それぞれの病院長の許可を受けて行っています。研究計画書、及び研究の方法に関する資料を、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等で支障がない範囲内で閲覧することが可能です。この研究の主研究機関は京都大学消化管外科です。問い合わせは京都大学消化管外科医局、あるいは当院外科までお願いします。（研究担当：外科 山口高史・松末亮）

研究責任者：松末 亮

問い合わせおよび相談窓口：

京都大学消化管外科医局（075-751-3111）または京都大学医学部附属病院 相談支援センター（075-751-4748；E-mail: ctsodan@kuhp.kyoto-u.ac.jp）

京都医療センター 外科（074-641-9161）